

食育授業で子どもたちの意識と行動が変わる

「もったいない」を「ありがとう」に変える高校生の力



企業・大学と連携の食育授業

この町の食品ロス削減の取り組みは、民間事業者や高知大学とも連携して進められています。

令和2年度には、町と株式会社アッシュエ(本社/高知市)と高知大学の3者で「SDGs推進に係る連携と協力に関する協定」を締結し、毎年さまざまな取り組みが行われています。

今年度もその一環として、6月から7月にかけて町内9校の小学校で、「食品ロス削減」について学ぶ食育授業が実施されました。

食品ロスを福祉へつなぐ力



窪川高校では、令和3年度から家庭で余った未開封の食品などを回収し、支援の必要な方や福祉施設へ届ける「フードドライブ」という活動を行っています。

生徒たちは町のイベントや文化祭などで専用ブースを設け、食品ロスの啓発活動に取り組んできました。

廃棄される食品を減らし、生活に困窮する方々を支援する「支え合いの活動」が継続されています。

社協へ生徒の想いを添えて

今年度は、家庭科の授業を受ける1年生が中心となり、年3回のフード



食品ロスを減らす大切さをクイズ形式で学ぶ食育授業。

授業が起す意識の変化

授業では自分たちが取り組むことを「宣言書」に書きます。「出されたものを

授業で知る食品ロスの現実

「日本で2年間に発生する食品ロスの量はどれくらいでしょうか」。7月1日、食育授業を受けていたのは田野々小学校の3年生。

(株)アッシュエのスタッフと高知大生が先生役となり、子どもたちは食品ロスが環境に与える影響などをクイズ形式で学んでいきます。

どうして食品ロスを削減しないといけないのか考え、食品ロスの約半分が家庭から出ている事実を知ること、子どもたちは真剣に自分たちにもできることを考え始めます。

年間通して続く助け合いの輪

高校生がつかないだ助け合いの輪は、年間を通して社協の「フードバンク」という活動で継続されています。

「もったいない」を誰かの助けに変えるため、余った食品のご協力をお願いします。



「無駄にしない」という感謝の想いを手作りの箱に詰め、福祉へと届ける瞬間。



株式会社アッシュエ
あやか
高橋 彩華さん

「授業をきっかけに、家族で始めてほしい」

食品ロス削減には、家庭での取り組みが重要です。その点、小学生への授業はとても効果的で、子どもたちは学んだことをすぐに家庭で話し、家庭での取り組みへとつながっていきます。

皆さんもスーパーにある「もぐもぐチャレンジ」などに、ご家族で参加してほしいです。



もぐもぐチャレンジ

のは全部食べる「苦手なものでも少しずつ食べる」「食べられる量だけ取る」などの決意が書かれていました。

授業の最後には、食品ロス削減を啓発するキャラクター「もぐにい」が登場し、子どもたちは大喜び。

食育授業をきっかけに、各校では食べ残しゼロやフードドライブの設置など、行動に変化が見えています。

そしてこの学びは、子どもたちから家庭へと確実に広がっています。

「もったいない」が地域の「福祉」の力に変わる!

助け合いの取り組みが、もっと広がれば!



窪川高校 1年生
松田 美珠穂さん

今回もたくさんの食料が集まったことがうれしいです。家庭で食品を食べきれないときに、すぐに捨ててしまうのはもったいないです。

「食品ロス」について学んだことで、食品への視点が変わり、家でも「食べないなら必要な人に届けようか」って自然と話すようになりました。

「フードドライブ」という助け合いの取り組みが、窪川地区だけじゃなく、もっと広がってほしいなって思います。

皆さんの想いを重く受け止め、大切に届ける



しまんと町
社会福祉協議会
りえこ
会長 牧野 利恵子さん

学校の授業で「食品ロス」について学び、「フードドライブ」という活動を通して、若い世代の方たちが「地域福祉」問題にまで関心を持ってくださることがうれしいです。

現実に四万十町にもこういった活動を必要としている方がいます。「誰かの助けにー」という生徒の皆さんの想いを重く受け止めています。

だからこそ私たちも、責任を持って必要な方にこの食品を大切にお届けしています。

年末年始も「食品ロス削減」を忘れないでねぐ!



年末年始も、感謝の気持ちを食卓へ。

特に食品ロスが増えやすい年末年始。余分な購入、安易な廃棄は控えましょう。

- ✔ 忘年会や新年会では、「もったいない」を合言葉に積極的に料理を食べきろう!
- ✔ 特売品や大容量パックの購入は、食べきれぬ量だけにしましょう!

お問い合わせ先 / 企画課 22-3124